

【1】 次の資料や表を利用し、問いに答えよ。

資料1

特定外来生物で、つる性の植物「ツルヒヨドリ」が沖縄県内で広がっていることを受け、名護市は本年度から防除に乗り出す。本年度は市民と共に市内の繁殖状況を調べながら防除計画を策定し、早ければ次年度から防除に入る。「奄美大島、徳之島、沖縄島北部および西表島」の世界遺産登録に向けた取り組みが進む中、やんばるの希少な山林地帯の入り口に当たる名護で、生態系に深刻な影響を与えかねない外来植物への対応を強化する。

環境省は、名護市の防除計画の策定事業を、2020年度「生物多様性保全推進交付金」の支援対象に採択した。ツルヒヨドリは南北アメリカの熱帯地域が原産で、アメリカでは「1分に1マイル広がる雑草」の異名を持ち、猛烈な勢いで広がるのが特徴だ。他の植物を覆いながら生育し、その下にある植物に太陽光が当たらず枯らしてしまうなど深刻な影響を与える。世界の侵略的外来種ワースト100に挙げられている。環境省沖縄奄美自然環境事務所によると、国内では1984年、うるま市の天願川河口付近で発見された。本島南部や北部でも散発的に成育が確認されているという。名護市によると、繁殖状況の把握はこれからだが、市内でも2017年度ごろから繁殖の報告が目立ち始めたという。(琉球新報2020年5月11日)

資料2

気候の変化に伴い海面の高さも変化した。寒冷化の時代には、氷河の拡大などによって海水の量が減り海面は低くなった。約2万年前には海面が現在よりも約120m低かったが、その後、温暖化による氷河の融解などの影響で海面が高くなった。

気候変動の主な原因は、地球と太陽の間の距離の変化や太陽活動の周期的変化などであったが、産業革命以降は人間活動による影響が大きいとされている。気候の急激な変化によって、数ヶ月も続く干ばつや極端な冷夏・暖冬、数時間も続く大雨など、これまでに観測されなかったような異常気象が世界中でも頻発している。(帝国書院 新詳地理B引用)

表1(那覇市)

那覇市	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
1975年	16.1 196	16.2 110	17 195	21.6 248	23.1 414	25.7 527.5	27.5 444.5	27.3 370	27.3 114	25.6 298.5	21.5 40	17.2 84.5
1985年	16.2 46	17.3 281	19.4 64	20.2 152.5	24.6 152	25.9 180	28 107.5	27.5 479.5	27.3 140	25.4 90	20.5 91	17.7 221
1995年	16.4 64	15.7 83	17.6 332.5	22.1 49	23.3 206.5	26.3 269.5	28.5 96.5	29 130	27.8 227	26.1 128.5	21 148.5	17.8 28
2005年	16.6 69.5	17.9 172	17.2 169.5	21.5 98.5	24.2 175.5	26.6 860.5	29.2 6.5	29 112	28.2 64	26.2 60	22.8 48	17.2 111.5
2015年	16.6 22	16.8 47	19 95.5	22.2 100	24.9 197.5	28.7 38	29 369	28.7 278	27.8 46.5	25.5 63.5	23.8 95	20.1 73

問1 圭子さんと裕子さんはこのような資料を読んで、那覇市の1975年から2015年まで10年ごとの気温と降水量を調べて表にした。(表1)次の会話文を読み、(①)に当てはまるものを次の①～④の中から選び記号で答えよ。

圭子 近年の極端な気象状況は、人間活動が主な原因なんだと思うわ。

裕子 確かに化石燃料を使用することによって、地球温暖化に影響を与える温室効果ガスが増えるわね。

圭子 このままいくと那覇市は将来、熱帯気候になるのではないかな？

裕子 そうね。それに最も関連のある資料は(①)だよね。

圭子 もし熱帯になれば、植物などの生態への影響が心配だわ。

裕子 そうならないためにも、私たちが出来ることを意識高くやっていきましょう。

①最暖月平均気温

②最寒月平均気温

③年降水量

④最小雨月降水量